

## 練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第12回）「体力の向上」部会 要点録

開催日時	平成22年6月29日(火) 午後3時39分～午後5時33分	
会場	練馬区役所東庁舎4階 401会議室	
出席者	委員	米津光治、赤木宏行、宮野いずみ、工藤智昭、田中泰明、畑 陽子 (敬称略)
	その他	教育出版
	事務局	五十嵐浩子 統括指導主事、渡辺浩一 指導主事

### 1 挨拶

#### 部長

前回かなり具体的な方向性が示されたと思います。日程的に非常にタイトなので一回一回の会が大切になってくる。ぜひこれから先もご協力をお願いします。

### 2 協議

#### 事務局

本日の協議についてお手元に次第と前回の要点録をお配りした。参考資料として前回割り振った担当と学年の対比表になっている。前回決めた分担で具体的にどの学年を対象にした資料を作成するか全体でバランスを一度確認したい。

本日は前回までの作成資料の内容確認を行い、その後いま実施を検討している該当学年を伺いながら、学年のバランスを全体で確認したい。

それでは協議に移る。まず(1)作成する資料について、本日お配りした次第の要点録の大きな4番、事務局提案と協議。項目は6つ。

1つめは小学校の体育におけるTT授業の指導案を1事例作成する。内容は第Ⅱ期の小学校5年もしくは6年を対象とし、単元は器械運動、中学校の教員がT2として入るTTの授業です。器械運動を取り上げたのは、この指導を課題ととらえている先生が多いのではないかとという小学校の先生方等のご意見があった。

2つめの項目は健康安全・体育的行事<特別活動>について、縦割り班やきょうだい学年で行う運動遊び等の案作成。宮野副校長から複数の指導案を作りたいとお話があった。一つはきょうだい学年だけではなく第何学年から何学年までともう少し幅を広くし、交流を主たる目的とする誰にでもできる運動遊びを考えてみよう。例えば学年以上の子もたちが小学校の子もたちの面倒をみるようなもの。もう一つは例えば第5学年と第7学年などなるべく近い学年で組ませ、体力の向上を目的とするもの。

3つめは、健康な体づくりを目指した授業。これは田中先生にお願いしたい。体力の向上には健康的な生活、基本的な生活習慣等を整えることが欠かせない。学校では基本的な生活習慣を整えるようなチェックシートを活用する家庭と連携した取り組みなどを小学校3年生からの保健の授業とは別に例えば学級活動で子どもたちに指導し、その後基本的な習慣を向上、改善するようなチェックシートを介在させた取り組みなどを家庭とできないかと考えた。学級活動における学習指導案プラス基本的な生活習慣のチェックシートを試案としてお願いしたい。

4つめが新体力テストの結果の活用。体力に関する知識を深める学習は現在、中学生は体力の知識のところ体力テストの項目があり、教科として学習していて、今後も体育理論等で学習します。しかし小学校に関しては体力を扱う教科、項目が現在のところない。したがって学級活動を通してなぜ体力を高める必要があるのか、それがどう体を健康にするのかという体力に関する知識を深めるものを別個に学習指導案として一つ設定しようと考えた。

それから、仮称「体力のあゆみ」と書きましたが、いま練馬区では小学3年生から中学3年生までの7年間、体力テストの毎年の結果が分かり、記録を蓄積していくシートがあってもいいのではという意見が出た。

5つめが「体づくり運動」。小学校は来年度から全面実施になり、特に「多様な動きをつくる運動（遊び）または「多様な動きをつくる運動」において今さまざまな資料が出ています。ただし小学校高学年と中学校の「体力を高める運動」に関する運動事例集はなかなかない。ここで「体力を高める運動」も含めた運動事例集を一つ作成することで「体づくり運動」に役立てられ、また運動遊びや体育集会でも参考に活用することができるのではないかと考えた。

最後に部活動。これは既に当該校の第6学年を対象に実施されている部活動の実施例で、さまざまな要綱や関係資料を本研究の1資料としていこうということでここに載せてあります。これは既に作成されたものを添付する。

#### 委員

例えば学習指導案はどこを対象にしていくのか確認したい。あとチェックシートもどこを重点的に対象とするか、何種類か作らなければいけないのか、それとも1種類で済みますのか。その辺りの検討が前回までにあれば教えていただきたい。

#### 事務局

まだ具体的に詰めていない。すべての学年を網羅することは時間的にも難しいので、対象とする学年を絞って検討し、全体のバランスを一度確認したい。

#### 事務局

前回の会議録を参照していただきたい。学年は未定だが、9年間を考えてここでやることに意味があるというような考え方のもとで学年を挙げていただきたい。

#### 事務局

それではきょうだい学級の実践例をご説明いただく。

#### 委員

きょうだい学年と縦割り班の例を2～3ということでしたので、きょうだい学年を二つ、縦割り班を一つ考えた。この「子とろ子とろ」は子とり鬼のゲームに入るが、この例は「子とろ子とろ」と呼ぶ。項目が健康安全・体育的行事でしたので、領域は「健康安全・体育的行事」となっています。これは「体ほぐしの運動」の重視する指導項目が三つどれも入っているので、この三つを入れました。

活動のねらいはこの3つ。活動時間は朝の体育集会の時間でも昼休みのきょうだい学年遊び

の時間でも、どちらも活用できると考えています。活動場所は広い場所が必要なので校庭を設定してあります。活動方法は10人ぐらいのチームになり、鬼が前にいて親と向き合い、親の後ろに子どもが肩に手をつなぎながらつながっていきます。そして鬼が後ろの子をタッチするように走り、親はそれを邪魔するように手を広げながら動きます。途中で切れたりタッチされた時には親が鬼になり、鬼は今度後ろにつく。そういう流れでやる。

「鬼遊び」が基本になっているので、各教科・領域との関連としては「体ほぐしの運動」と「鬼遊び」を書いた。基本的に小学校と中学校を対象としたものなので何年でもできるかなと思うが3年生と7年生という形で考えた。

2枚目の実践例②は「力だめしの運動」が基本になっている、「友達運びin布」というゲームです。活動のねらいは「優しく引いたり押ししたりする。姿勢が崩れないように力の入れ具合を加減する」ことだ。これは体育集会の時間かなと。場所は、体育館。布の上に座った相手の足を持って、バランスを崩さないように引く。発展としては腿から両手を離れた姿勢で引いたり、布を4枚にして体重をかけた状態で体の横から押していくような動きもある。こちらは小学校中・高学年と中学校が対象なので、4年と8年のきょうだい学年で考えた。

それから3枚目は縦割り班で考えた。1・3・5・7・9年のAグループと2・4・6・8年のBグループに分ける。体育館と校庭に分かれるか。こちらは「異学年が気持ちを合わせてフープを送る。体をやわらかく使ってすばやくフープを移動させる」ことがねらいになります。集会等でやったことがあるのですが、縦割り班ごとに横を向いて手をつないで1列に並び、フープをはじの人の腕にかけておいて、スタートの合図でフープを隣の人に送ってもの。

最後の人がフープを上を上げたら班全員がその場に座る。早く送れるかどうか競争も入れながらやると楽しくできると思われる。「用具を使った運動」の関連で行った。

#### 事務局

それではこの3実践例についていかがでしょうか。

#### 事務局

2行目の重視する指導項目で「仲間との交流・体への気付き・体の調整」と書いてありますが、ここには中間報告書の30～31ページにある、体力の向上部会でご提案いただいた「運動に必要な動きや技能」「運動の楽しさを味わい意欲的に運動に親しむ態度」「健康を保持増進するための知識や理解」の3本柱にあたります。おそらく「運動の楽しさを味わい意欲的に運動に親しむ態度」にあたるのではないかと。

それから活動のねらいは体力の向上としての活動のねらいと、それから小中一貫教育校においてこの活動をする事の良さやねらいを加味していただけるとありがたい。

#### 委員

きょうだい学年の例を2つ挙げたが、今でも活動のねらいは変わってくるのか。

#### 事務局

これは健康安全・体育的行事ですから特別活動（健康安全・体育的行事）という扱いだと思う。特に仲間との交流が一貫校として大事になってくるだろう。

**委員**

異学年交流の特活のねらいは、体育的などころでは変わってきますが、一貫教育としてのねらいは三つとも一緒と思うが、よいか。

**事務局**

本部会では特別活動の時間を使って体力向上の実践事例を提案するわけで、一貫教育校において体力向上を目指す趣旨とか、体力向上をねらうというゴールについて、「それを実践することにより、一貫教育校の体力向上はこのようにはかられると考えています」というふうに言っていただきたい。

**委員**

この間、渡邊先生とお話した時には、ここはそんなに体力向上をねらったものではなく、その要素は含むけれどもふれあいを中心にと、そうすると特活的な要素が強いですよね。全く体力向上と関係ないわけではないのですが、2点それぞれに分けるのがちょっと難しいかなと思いました。異学年交流として一つ特活のねらい、体力のねらいがあるのかなと感じ、それできりあえず運動のねらいを書いておきました。違いが出てくるかやってみないと分かりません。

**事務局**

体力向上をねらう中で、昨年度の一覧の中の学校行事の位置づけは、直接体力の向上というよりは情意面、運動の楽しさを味わうところを、重視する指導項目の中でねらいとした。大きくくりとしては、本部会では学校行事、運動遊びなどはどちらかというと運動の楽しさを味わうことを大きなねらいにしたので、活動のねらいに情意面を入れていただき、そのほかにこれを通して身につけられる要素もあると付け加えたらどうか。

**委員**

学校行事なので、三つ出すとしたら重視する指導項目には「運動の楽しさを味わい意欲的に運動に親しむ態度」が三つ同じように入るか。

**事務局**

実践事例3部とも重視する指導項目が、本部会を出している「運動の楽しさを味わい意欲的に運動に親しむ態度」でいいと思われる。

**委員**

中間報告書 30～31 ページの内容をもとに自分たちで進めていいのか。修正が加わります。例えば学校行事のところ縦割り班やきょうだいグループなどは入っていません。私のところでは多分、学活の内容が入っていない。ということはそれとは別口で新しく追加していく項目が出てくるということでもいいか。

## 事務局

結構です。

## 委員

今の宮野先生と同じように、小中一貫の必要性を打ち出すのか、体力向上をメインにするのかで非常に迷っている。今の話でいくと重視する指導項目は先ほどのものでいいのだろうが、今ここに書かれているのは活動した結果、体力向上で期待できる効果だ。例えば小中一貫でいいのは、3年生と7年生など小学校ではあり得ない組み合わせができることだ。

その中で活動することにより運動に親しんだり、面倒見がよくなったりという、交流が深まる特活的なよさプラス、体力向上としての効果が期待できるでしょう。周りをお膳立てしながら、スムーズに中学生が入ることで楽しみながら体育的活動や行事が短期間でできて効果がある。それが小中一貫でここに取り組むよさである。そういうことを書けということか。指導案を作ってもそれで、どちらを先にするか、あるいは分けるかで迷っている。

例えば、マット運動の指導案を作成中ですが、学習指導要領を見たら6年生ではやらなくてもいい発展技が中1だと基本技になるのです。要するに小6でやらなければいけないことをパスしたら中学1年生で必修として取り組まなければなりません。その時に中学の先生が入る効果としては、中学の先生にやってもらうことがいいから小中一貫がいい、それによって体力が向上したり技が異なってくるというのがいいだろうと思ったのですが、体力向上の面と小中一貫校のよさのどちらをうたうのか。指導案に効果やねらいを書かなければいけないので、その辺りが非常に複雑になっているという今の話を聞いて、体力向上面をまずやって、そして小中一貫校だからこういうよさがありますよとか、その辺りの書き方や内容について考えている。

小中一貫のよさはこの場合、中学生と小学生が交流しながらうまく活動することにより、体育行事活動や行事面で体力向上の効果があると記述すれば、効果的だと思う。

## 事務局

既にキャリア教育部会からいただいているのでは、例えば1年生や8年生でやる時に、領域なり教科なりのねらいがある。それから「この事例とキャリア部会とはこういう関連で今回、指導案を提案します。この事例は小中一貫教育校においてこのように期待される効果があります」と書かせてもらいたいという言い方をされています。

これは指導課の中で検討しなければいけないのですが、そのキャリア教育部会の提案を体力部会にいかすとしたら、宮野先生からいただいた実践例では、特別活動の学校行事の事例として1番に特活のねらいがある。そして二つ目にこの事例と体力向上の部会との関連。体力向上部会がねらっていることとこういうつながりがあり、そしてこの事例を一貫校で実践するところということが期待できると考えていますということが、指導案になる前の段階で述べられるといいのではないかと。もし、そのようなキャリア部会の提案を体力のほうに取り入れるとしたらどうか。

## 委員

きょうだい学年の活動とすると、ものが違うので体力的な力がつくというのは違ってくると思うが、特活のねらいなどは似たようなものになる気がする。例えばみんなで協力してやると

か、低学年に対して静かにやるとかが出てきて多少は違うと思うのですが、なんとなくその違いがどうなのか、最後などは出てくるのかなど。互いの気持ちを合わせてとか相手を思いやるとかいろいろ出てくると思うが、そういう部分で似通ってしまう気がする。

#### 事務局

前回6月15日に検討した時に、たった1時間や15分のためになにも準備しなくていいかというところではなく、仕込みをしなければいけないと。高学年の子に司会をさせるなどがある。例えば違いを出すとしたらここに載っていない事前の準備、当日というような書き方もできるかもしれません。渡邊さんと高橋先生にも確か発言していただいたと思うが、たとえ文面上同じになるところはあっても、活動例としては出していただけだと思う。ただ文字だけでは難しい感じがするので、イラストが必要だと思う。

#### アドバイザー

例えば特活のねらいですと、3枚目は学年の枠を超えたかなり大きな集団が活動しますので、そこに意味がある。その活動ならではのこを書いたほうがいい。例えばこの活動は3年生と7年生でなければいけないのか。あえて3年と7年でやるのであれば、3年生にとってはどんな効果があるのか、7年生にとってはどんな意味があるだろうかという観点か、すべてを網羅するのではない。これは例なので4と8の組み合わせでも活動としてはできる。けれどもこの事例では3年―7年でやる、4年―8年でやる、その意味は何かということだ。

正解ではないと思いますが、例えば小学校5、6年生はある部分いまの中学生と関係の深い学年ですが、4年生にとってはもしかしたらこれが初めての上の学年との交流になるかもしれません。そういうところで4年生にとってどんな意味があるのか、あるいはどんなことをねらうのか、そういうことが特活的なねらいとして書かれればいいのかではないでしょうか。それは全部網羅するのではなく、この中ならではのものを一つか二つ。

先ほどからご指摘があるように体力向上としてはこの活動でどんな力の向上をねらっているのかにも触れる必要がある。できれば3年生がこの活動からどんなことを身につけるのか、あるいはどんなところに気をつけるのか。上の学年がリーダーとしてどんなことを計画するのか、その活動の中でどんな仕切りをするのかも当然、活動によって違う。

もう一つは、この10分や15分だけで終わるのではなく、この後もっと発展的に学年を増やすあるいは、時間を延ばすなど考えられるのであれば、こんな活動もありますよみたいな事例があるとよい。

#### 委員

ねらいの中に準備や身につけること、気をつけることも含めるか。

#### アドバイザー

事前授業の指導で項目を起こせばいい。3学年で必要な事前の指導や活動、7年生として必要な事前の指導や活動の項目を、今1～6の項目立てがありますが、その中にもう一つ増やしたらどうか。ねらいの視点としては特活的なこと、体力的なこと、小中一貫校として異学年交流をする中での学年の組み合わせのねらいが一つ出てくれば十分ではないかと思う。

#### 事務局

いま活動のねらい、それから事前、事後の指導の別項目立てのご助言をいただいた。

#### 事務局

宮野先生、3と7とか4と8というのは何か理由があつたと思うが選んだ理由は。

#### 委員

鬼遊びの「子とろ子とろ」は何年でもいいと思ったが、やはり3年生が一番活発に動く時なので、すばやい動きができて鬼遊びにはいい。そして中学1年生の動きもまたちょっと違うので、つっこまれるのも違っておもしろいと思った。

4年と8年は、「力だめしの運動」の「引く」というのは中学年以上がいい。8年とやると2人で引っぱらないと動かない場合もあり、2人でこういうふうにやるといいんだなと思ったり。または横押しなどもあるのですが、1人でできない時には2人で力を合わせようというのも出てきて、4年、8年だとおもしろいかなと、いろいろ想像しながら作成した。根拠はと言われると難しい。

#### 委員

私の学校も毎週体育朝会をやっていますし、きょうだいグループ活動もやっているのになんとかイメージはつく。事前授業も非常に大事ですが、活動場所も非常に大事である。どのぐらいの人数がいるか分からないので校庭や体育館をどう使っていくのかイメージが非常に難しく、指導案に起こすのも大変だろうと思う。

せっかく中学生と交流するのであれば、多分リーダー的な存在になるので、その時間の活動が一つでいいのかどうか。具体的に言うと、例えばある程度たくさん活動がある中で7、8、9年生が活動を選び、ある程度の場所の中で活動していくのも一つの方法だ。慣れてきたら種目を選んでそのグループの友だちとやっていくようなことが最終的に出てくると、中学生のリーダーシップもいきてきて、この活動の意味がある。

ただ指導案に載せるのは非常に難しく、一番簡単なのは表にすること。それは話が逆戻りするの。例えばもう1枚どこかを抜かして、最後年度末にはこういう状態になっていきますというように表せるとおもしろい。

#### 委員

うちの学校できょうだい学級での遊びをする際には、縦割りリーダー会というのがあり、給食の時間などに集まってどんな遊びを相談してやるので、ドッジボールをやるところがあつたり、鬼遊びをやるところがあつたり、いろいろある。

ただ打ち合わせなどを考えると、まずは一斉のほうが分かりやすいと思う。将来的にはそういう活動もできれば一番いいのですが、それだと準備計画が必要になる。

#### アドバイザー

これで全部網羅はできない。先ほど申し上げたようにこの活動自体は「体ほぐし」になるので、重視する指導項目としては当然、先生が書かれたように「体ほぐし」のねらいが三つ出て

くることになる。しかし、3年生と7年生が「ほぐし」ではなく一緒になって遊ぶことも考えられるのでこれは一つの事例ですが発展的にはこんな例もありますよ、あるいはこんなふうに活動が発展していくこともあるということがこの中に入れば十分イメージできるのではないのでしょうか。私はそこが大事だと思う。

この事例をどの学校もすべてやってくださいということではなく、本来は実態に合わせてリメイクしたり、さらに発展させたり、創意工夫を加えていきます。この活動ですべて完結するのではなく、それぐらいもっと柔軟なとらえ方をしてほしいという意味で、発展的な活動でこんなことが考えられるという一文があれば十分かと思う。

#### 事務局

もしそれを書くとしたら、宮野先生の事例では5番目です。項目の名称はいま一つなのですが「今後の発展として」とか。小学校と中学校の校庭及び小学校と中学校の体育館の四つの活動場所があるので、そのようなことも書いていただければ。

#### 委員

渡邊先生に送っていただいたこの指導案の枠で書ける部分を書く。番号を変えている部分もあり形も全然違いますが、活動のねらいがあって、時間と場所を入れて、そして活動方法があって事前・事後。

#### 事務局

活動方法と言いますかその概要、事例の流れになると思う。

事前の指導とか事後の指導、あるいはここに事後の発展例とすることもできる。

#### 委員

各教科・領域との関連はなくてよいか。

#### 事務局

ここは場合によっては、先ほども申しあげましたが特活として、体力向上として、一貫校としてとなってくると必要ないかもしれない。ここは検討させていただく。

#### 委員

先ほど三つ大枠でねらいを書くと言われましたが、それは項目に分けて書くのではなく「・」で書いていけばいいか。

#### 事務局

どちらでもかまわないが、通常の特活の提案ではなくそこには背景があるということを明記してほしい。

#### 事務局

それでは、まとめる。活動のねらいに関しては、取り上げる実践例によって例えばこれは体

力の向上を優先してみようとか、特活のねらい、小中一貫だからこそできるねらいと、三つの観点がある。特にこの事例に関してはここを優先したいというところもあると思うので、それを優先的に書いていただきたい。

指導案の例示はあくまでも案ですので、これをベースに、発展的な活動例なども入れていただければ、特に今回の学校行事の実践例に関してはその辺りの視点も加えていただければ。

#### アドバイザー

異学年で一つの活動をする時に、例えば3年生が鬼になるのと7年生が鬼になるのでは運動の質などがずいぶん変わる。その時どんなことに気をつけるか。例えば列が長くなればなるほど鬼にとっては有利になるので7年生の時は短くし、3年生の時は長くしてあげるとか、本当に活動するのであれば具体的な配慮として出てくる。1枚目を見た時に、そんなポイントが出てくるといい。2枚目も、布の上に4年生が乗ると8年生が乗るのでは運動の質が違ってくるので、明確にすると思う。

#### 事務局

実施上の配慮点のようなところ、あるいは交流を深めるためのポイントか。

#### アドバイザー

そういうのがあってもいい。

#### 委員

この資料の8学年で、ちょうど中2にあたります。先ほど米津先生からももちろんこれで完結ではないということでしたが、例えば1枚目では10人のグループ、2枚目でもきつとチームなどが出てくると思います。中1だと男女の体力差はあまり目立ちませんが、やはり中2、中3では、チーム分けをどうするかとか男女どのように分けるかが話題になる。

もちろん一緒でも可能だと思うが、学校が荒れも関係してくる場合もある。ただ中学校で指導にあたって少し気になったので、チームを作るところでの配慮が入ってくると分かりやすいかなと思う。

#### 事務局

その他いかがでしょうか。

#### 事務局

担当指導主事として「健康な体づくり」の授業案や新体力テストなどほかの先生方の分担の項目について、この学年でやってほしいという案はあるか。

#### 事務局

今年度スタート時の部会の中で重視していきたいポイントに第Ⅱ期の充実があり、この中に第Ⅱ期にあたる7学年が一つ入っている点が非常にいいと思った。あと実践事例の3枚目は全学年が対象ですが、本部会のほかの項目で全学年でというものがなかなかなかったので、ここ

に全学年がかかわる実践事例が一つ入ったことも非常によい。

#### アドバイザー

前にもこの部会で話したが、中学校は地域の保育所や幼稚園へ行き体験活動などをやっているが、小中一貫ですとまさに目の前に小学校1年生がいて、わざわざ外に行かなくても目の前にいる1年生とのかかわりができる、これは中学校にとってメリットではないか。体力づくりとなるとはずれるかもしれないが、中学校サイドからのメリットがあってもいいのかなど。

どうしても異学年でやると下の学年がどんなお世話をしてもらえるかとか、どんなメリットがあるのかというイメージが強いのですが、上の学年にとってもいいことはある。これは全部朝の体育集会の「体ほぐし」のような活動になってしまっているのです、そういう観点でも少し違うものが一つ出ればいいかなと思う。

3・7とか4・8だとお互いに体力の向上がありますが、例えば1・9という極端な組み合わせだと、9年生は体力向上ではそんなにメリットはないが、保育の活動のようなメリットはある。また、そうは言っても体は動かしているのですから体力向上の観点でもゼロではありません。1年生にとっては逆にすごく上のおにいちゃんとかかわることで違う体の動かしや体力づくりのいい体験ができる。同じ体力向上のところに応分にウェイトがかからなくてもいいのではないかという気もするが、どう考えるか。

#### 事務局

そういう事例があってもいいということか。

#### 事務局

前回、宮野先生から2つご提案があった。一つはどちらかという体力向上を意識した取り組みで、もう一つはどちらかという交流や運動の楽しさなどを着眼点に置いて、少し幅を広くということで実践事例3を出していただいた。

いま例として1年生と9年生がありましたが、体力差があって体力向上が主たる面ではないけれども、全く体力が違う1年生の子どもたちを運動遊びや何かを通していろいろ面倒をみたり世話をすることで、かかわりという部分で9年生も人間的な向上がはかれる。そういった取り組みが入ると、一つは近い学年での体力向上をメインとした取り組み、一つは多くの子どもたちがかかわる運動遊び、もう一つは、あえて学年差を設けて上の中学校の子どもたちもいろいろ学べるような活動、そういうご指摘だと考える。

#### 委員

例えば1年生が体力テストをするお世話をしながら教えるのもありか。

#### アドバイザー

もちろん。例えば1年生6人のグループに対して中学のおにいちゃん、おねえちゃんが1人ずつについて運動遊びを紹介して活動させてあげる。これは中学生の体力づくりにはあまり直接的なプラスではありませんが、指導の重点の「運動の楽しさを味わい意欲的に運動に親しむ」ねらいで言えば中学生にとってもメリットがある、そういう意味だ。一貫校でというのであれば、そういう組み合わせもありという気がする。

事務局

イメージとしてどうか。

委員

何をやらせるかが一番ネックですね。例えば中3と1年で現実的に何をやらせるか。

委員

リズムダンス的なものならばできるイメージはある。子どもたちは体動かすのが大好きなので、同じようには踊れませんが、何か一緒になって踊るのは一つできる。

委員

いま1年生が普段やらないようなハンカチ落としや花いちもんめなどの昔遊びや運動遊びを教えたり、一緒にやったり、ちょっと体を動かすのも可能。

アドバイザー

そもそも100%学校がお膳立てしてこれやりなさいということではなく、教える運動遊びは中学生が考えてもいいわけです。そういう場を設けることで十分考慮になります。ただ事例なので、どういう可能性があるのか、どんな場面が考えられるかという事例があってもいいです。

事務局

では、ちょっと差があいた学年間の取り組みという視点を一つ取り入れていただくことで。

事務局

それでは協議の二つめに入る。

委員

一応6年生で考えている。

事務局

一番初めの新体力テストの活用、学級活動による指導等は、今のところイメージは。

委員

中学年でやるとすれば4年、5年かと。3年で一回経験していて、もっと具体的に体力向上を見せた自己計画や遊び取り込み計画なども立てやすいかと思うので、4年がいいと思うが、まだ決めていません。

事務局

内田先生も中学校か高学年かで考えてみると。

**事務局**

部活動は5・6学年が対象で、そのための事前説明会や要項作成中とのことだ。

**事務局**

全部が運動系の部活ではないということもあるので、ここは柱として立てられるかどうかは難しい。要項から起こすとすると手間なので。

**アドバイザー**

体力向上部会ですからやはり運動部活動で、体力差あるいは事故防止の観点からどういう配慮があるかが必要だ。そこは文化部と決定的に違うところ。あとは中間報告でも触れたが5、6年生が部活動に参加する意味は、体力もあるが特に精神的な困難に向かっていくようなことに価値を見出すようにする。中学校で勝つために早いうちから技能的なことを教え込んだほうが良いと間違っているとられては困る。

**事務局**

それから「体づくり運動」の事例集は一応、全学年にまたがる。

**アドバイザー**

今度の学習指導要領で低学年に下りたので、全体のバランスを考えると1、2年の「体づくり」を充実させるといい。

**アドバイザー**

特に練馬区の課題である体力の要素の向上として1、2年生は新しい部分ですから特に重点的に「体づくり」の提案が一つ必要でしょう。練馬区としての課題があり、各学年全部取り上げたほうがいいのか、あるいは2学年ぐらいつつでどこかを上げたほうがいいのか分かりませんが、やはりそれは出さなければまずい。

**委員**

やる人が練馬区として取り組まなければいけない課題を改善するための「体づくり運動」事例を項目に分ける。いま3～6年生は大体どこでも資料があり、なくて困っているのは小学校1、2年生でどんな「体づくり運動」をさせればいいのかと、中学校の上のほうで、1単位時間でどういう運動をすればいいのかです。その辺を引っ張ってきて組み合わせたり、修正、開発したりがないと困ります。それを分類して「これが効果的ですよ。1、2年生でこんな運動に取り組ませると投力がつきますよ」などの事例を絵つきで紹介すると分かりやすいのではないのでしょうか。

**事務局**

小学校5、6年の事例もあるか。

**委員**

5、6年はあります。

**委員**

体育部で、持久力を高めるとか巧緻性を高める、力だめしなど多数ある。

例えば区の、絵がついている小学校のものなどはどんどん使っていいわけですよ。あれを少し加工すればいい。ただ問題は小学校でやっているものをそのまま中学校バージョンにはできないので、中学校の高橋先生にも相談して、こういうアレンジをすれば中学校でも興味深く取り組めるだろうという修正がないと使えない。

1、2年生についても飽きるし、トレーニング的になると駄目なので、運動遊び的な「体づくり運動」にする必要がある。そのアレンジをどうするかが結構大変ではないか。

**委員**

「体づくり運動」のカード集などはある。

**委員**

文科省の絵は張り込める。

**工藤主事**

そのやり方を少し工夫する。

**事務局**

イメージとしては、できれば1学年から9学年まで全体を通してどこでも対応できるような事例集が1冊できればいいかと。ただその中の盛り込み方は、工夫、改善が必要。なおかつ練馬区の体力課題を向上させる部分、それから事故等から自分の体を守る視点も入れた「体づくり運動」の事例集が一つできるといいかと考えている。

**事務局**

例えば子どもたちにカード化するイメージか。

**事務局**

それでもあるし、教師が指導するうえで参考にする資料でも。

**委員**

絵と簡単な運動の説明があればいい。そろえるのは多分かなり大変ですので、いま言ったように項目だけに絞って、破折事故の防止とか、練馬区として欠けている部分、それから1、2年生で運動事例が少ない部分で、各学年かいつまんでやっていく必要がある。

例えば本来それを1、2年生でやっていたら3、4年生ではもっと違う低学年からの積み重ねがあるはずなのですが、これはもう研究会や教研レベルでやる部分で、われわれは事例だけでいいと思う。系統性などを追うのは無理だが、こういう項目でいま練馬区は困っている、破

折事故などの運動が足りない、だからこういう学年でこういう事例がありますよと紹介程度でどうか。個数がある程度決めてやらないと莫大にやらなければいけない。

事務局

研究も必要になる。

委員

破折防止のための運動事例で1年生ではマット転がり運動、中3では格技の受身というように、いくつかコマを区切ってバランスよく並んでいけばいいのではないかと。

事務局

田中先生の「健康な体づくり」の授業案ですが、これは何学年ぐらいのイメージか。

委員

またいろいろ読み込んで質問させていただきたいのですが、私の部分は多分ほかの部活動、学校行事などと比べて、小中一貫というより体力向上のイメージで、あと新体力テストも体力向上の意味合いが強いのと思う。1年、5年、9年でやるのがいいのではと五十嵐先生が言われています。

事務局

これは心の教育の推進部会の例として示した。

委員

ここは何を取り上げるか難しい。

委員

うちの校内研でやったのは1年生の学活。うちは保健で扱えないので、学活的な内容で家庭と連携して「早寝・早起き・朝ごはん」のような事例をやった。具体的にはうんちの本の読み聞かせをし、よいうんち、悪いうんちのような話をして、みんな今日のうんちどうだったと1時間指導した。

ほかに啓発ポスターとか生活計画表などを少しやったことがあるのでなんとなくイメージはつくが、中学校で生活表なんかつけるのかなという部分もあり、逆に私が教えていただきたい。小学校は、指導案に起こすのはどうかと思うが、作れると思う。中学校で作れと言われると難しい。

事務局

栄養教諭のいる学校が1校あるので、その事例が提供できる。

委員

小学校の先生が中学校の特別活動を作るのは難しい。

**委員**

いま保健を見ましたが、ただ難しくなっているだけで、内容は基本的にあまり小学校の保健と変わりなく、結局似たような感じだ。中学校で啓発ポスターを作ったりする活動は見たことがある。

**委員**

日常的にどういう活動がいいかは難しい。

**委員**

ご飯を食べているかとか。運動をしているかといっても部活動の子は運動しすぎの部分もあるので難しい。

**委員**

例えば中学で薬害的な指導をした時に、日常的に何ができるかといっても特にはない。

**委員**

保健の授業でポスターを作らせたことがある。

**委員**

その後がないことが多い。

**委員**

薬物乱用防止で講師から指導を受けることがある。そのあと各クラスの保健の授業に下ろし、ちょうど3年の範囲なので急遽順番を変えて薬物乱用防止の講義が終わった後すぐに保健でまた薬物乱用防止について学習する。

**委員**

うちではよくやるのですが、例えばその後の学級活動で「ちょっとどう？」と演技をさせて断り方とか、実際にあるわけではありませんがそういうつなぎをする。保健以外で実際にそういう体験をさせることはあまりないと思う。

**事務局**

薬乱防止の講義があり1年生に対して、薬物に関しては3年の保健でやる内容なので1年生は知識として学んでいませんが、そういうお誘いがあった時にどう断るか、友だちをどう止めるかを小グループに分かれてロールプレイングしたことがある。

**委員**

それは小学校でもやっている内容なので「またか」みたいに。

**委員**

小学校の発想しかないので、中学校ではどういう知識部分を入れて、それを日常生活にかすためにどういう活動、指導があるのかが見えない。

**委員**

セーフティ教室などもあり、警察の方の話をどう高学年につなげていくかが難しい。

**事務局**

互いに小学校や中学校の実践や授業の内容を知らないことが課題だ。

**委員**

ですから指導案を作るのは多分どちらかという中学校のほうが楽だろう。ただワークシートとなると、例えば生活チェック表の中学バージョンを作ってはたして意味があるのか。アンケート項目を立てて子どもたちの実態を把握するのは多分やっていると思うので、アンケートはいいかもしれません。それはイメージできるのですが、中学生がチェック表で担任の先生に良くできたねと褒められてうれしいかどうか。1年生はおそらくのりのりでやるでしょうが。

**事務局**

われわれとしては、そこに意味づけをしてもらいたいという期待もある。

**委員**

意味づけとはどういう意味ですか。

**事務局**

意味があるのかとおっしゃいましたが、そうではなくて生涯を通じて自分の健康を管理することは、本当は高学年になればできなければいけないこと。はたしてそうになっているのか。

**委員**

例えば今度持ってきて「畑先生よろしくお願ひします。ちょっとやってみてください」と言って「効果抜群でした」ならいいのですが、この短期間で表すので机上の空論になりはしないかと不安に思う。

**委員**

中学校で何を活動させたらいいかアイデアが浮かばない、そこがポイントだ。よく分かる。逆に中学の先生にやっていることを少し聞いてみたらどうだろうか。

**委員**

畑先生しかいらっしやらないが。

**事務局**

畑先生、これに絡んでいただくことは可能か。

**委員**

確かに中学校の生徒の実態があるので、小学校の先生は浮かびにくい。

**委員**

路上に出て「たばこの吸殻をちゃんと捨ててください」と啓発活動、そういうイメージはあるのですが、その時間はあるのか。

**委員**

事例提案なのでそれらしきことを。

**委員**

次回生活習慣カードを作って、1年生を作って、そのうえで言葉を変えて5年、その後中学生のような感じでとりあえず作ってきます。1・5・9でいいですか。

**委員**

1年生のうちの事例は出発ですし、いいですね。

**事務局**

赤木校長先生、もし中学生で生活習慣の改善のためのチェックなどに取り組みせるとしたら、何学年ぐらいが適当と考えるか。

**部長**

習慣づけを考えればやはり1年からで、途中からやってもさほど意味はない。一貫校ではない普通の中学校の場合には小学校から中学校に進学した段階で、あらたにスタートした新生活の中で基本的な生活習慣をどう身につけていくかもある。食生活や薬物乱用防止の問題などを習慣化させていくにはやはり1年生からが一番。

いま話を聞いていて、小学校でも薬物乱用防止を教えていることに驚いている。今日6時から保護者の会があり、薬物乱用防止と性教育と万引きのテーマを学年ごとにセーフティ教室を保護者にやってもらうのですが、私たちとしては薬物乱用防止に関しては1年生ではちょっと早く、2年生でも若干早いかと。知的学習年齢というとおかしいかもしれませんが、薬物乱用防止は3年生辺りからやってもいいかという感覚です。学校や地域の実態で全然違うでしょうが、練馬区の小学校の実態がわかってよかった。

**委員**

飲酒防止と、小6の保健でやりなさいという形なので。

委員

区を通して都の指導が入った。

部長

体育の保健の授業の中でそれに触れるのは分かるのですが、例えば警察が介入したかなりシビアな内容が入っている。要するに現実の薬物乱用をいかに防止していくのかが入ってくるわけで、保健の分野で教えるのとはちょっと別格の内容という感じがする。

委員

基本的に保健の内容とさほど変わらないのでは。

委員

サンプルを持ってきたり、うちはライオンズクラブでやっているのですが、DVD は本当に麻痺になった人が出てきておりかなりリアルです。

委員

違いますね。うちはアニメ形式で変な気持ちの悪い怪獣が出てきて、ちょっと笑いに持っていきすぎかとも思います。教える側もあえて知らなくてもいい内容と少し疑問に思うところもあるが、知って、誘われて、やられるよりはいい。今のお話ですと、小学校1年生と中学校1年生のものを作ってくればいいか。もしくは第Ⅱ期の初めの5年か。

アドバイザー

やはりⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期があると理想的だが。

委員

ではとりあえず各期の一番初めを作成する。一人ではちょっと厳しいか。

委員

では私も作成にかかわる。

事務局

では畑先生、中学のところでお力をいただきたい。

委員

Ⅲ期、中2、中3で作成する。例えば生活習慣のお話が先ほどありましたが、一つのテーマを必ず、チェックシートがあればチェックシートのところに入れながら、中2、中3までもっていきますか。

事務局

第Ⅲ期中2ということですが、中1も中3も、中学生全体で使えるようなイメージで。

**委員**

あとは言葉の問題だろう。多分「早寝・早起き・朝ごはん」が3本柱できて、例えば排泄とか、睡眠は当然かかわってきますのでそこが中心になるだろう。あとは運動。いずれにしても生活習慣チェック表のようなもの作成する。

**委員**

こういうシートがあると学校で即使え、資料としてはありがたい。

**委員**

あとは家庭といかに連携するかとか、コメントとか。いま見ると「僕は、私はこんな活動をするよ、こういうふうにしていくよ」というものを参考にしてみる。中学校ではちょっと厳しいかもしれない。

**委員**

前回、7年分のスポーツテストのデータが集まるのは一つのメリットだと話されました。例えば今回のこの基本生活習慣もデータで残す。Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期に共通して言われること、1番「睡眠」、2番「便」、3番「食育」、4番「運動量」、「運動の内容」でもいいですが、そういうことが書かれていて、その四つを表にする。

言葉を少し変えるなど学年に応じて分かりやすく、発育、発達段階に合わせた表現でいいと思います。そして最後に家庭から一言、こういう様子があったといただく。1年生から9年生までの9年間にわたるデータが残るのは一ついいイメージかと思った。

**委員**

アンケートではなくデータとして残すのか。

**委員**

チェックシートになる。

**委員**

ファイルか何かにとじ込んでいく形ですか。

**委員**

はい。

**委員**

チェックシートは基本的に今の自分の生活習慣状態をチェックしてどうかしようというもので、見て改善するためのもの。体力テストはその年のデータの伸びなどあるが、逆にそのアンケートをためていく必要性はあるか。知って改善したり、家庭と連携したり、その後のほうが大事ではないか。

その辺りの中学生の取り寄せ方を資料として提示すれば、どこの中学校でもこんなふうにするんだとか、小中一貫のつながりの中で生活習慣について流れで指導しているのだと見えてくる。1年で絶対入れたいので、このように形を変えながらもずっと指導していく、そういうのならばいいのでは。体力テストのようにデータベースを作る必要はないかと。

ただチェックシートなど、どんな取り組みが中学生の資料として出されるのかは僕も分かりません。泰明さんが言ったところは小学校だから1年生や5年生など大体予想つくのですが、中学校は大変です。その辺り、資料価値はあると思う。

#### 事務局

1・5・中2が仮にあったとして、他の連携を含めた学校がその資料を基に4年生で作ってみよう、そう発展できればいいと思う。

#### 委員

確認だが、指導案は学活的な内容を取り上げ、カードと全く関係ないものでいいか。

#### アドバイザー

指導する時に使えるワークシートがあれば一緒に資料として提示するが、必ずしもその授業をやるから必ずワークシートを使えとはならないだろう。

この中間報告に、健康づくりの授業案には「健康を保持・増進するための知識や理解」という指導の重点があり、Ⅰ期は「基本的な生活習慣を形成するための正しい……」、Ⅱ期は「身近な生活において課題の解決を目指して考え……」、Ⅲ期は「自らの健康を適切に管理し生活を改善していく力……」という大きなねらいがある。それぞれねらいをクリアするための授業の提案が一つあるといいのではないかということ。先ほど田中先生が言った小学校1年生の排泄はまさに基本的な生活習慣形成で、ねらいをクリアしているすごくいい例だ。

中学生になると「自らの健康を適切に管理し生活を改善していく」ということで、ただチェックするだけでは駄目だよ、それを使ってどうしていくのと。現実的に例えば中学3年生が受験期の健康ということで、睡眠時間はどのくらいある、食事はどうしている、夜食どうしているとチェックし、自分で健康管理させるのを学級活動などでやったりするといった提案のほうがいいのではないか。

これも先ほど田中先生が言われましたが、基本的に保健や家庭科で教える学習内容として既に明確になっているものの隙間を埋めていく。そういう意味で特に低学年は何もないのでいい提案です。5年生だとどんなことがあるのか、中学生ではどうするのかと、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期のねらいをとらえて考えていただければいいと思う。

#### 委員

考えてみる。

#### 事務局

本日の協議の内容は以上とする。